
初恋

桜井葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋

【Nコード】

N2807G

【作者名】

桜井葵

【あらすじ】

すごくキレイで皆からも人気の彼女に1人思いをよせている光。けど、その恋はかなうはずがない。だって、彼女は彼が好きなのだから・・・。

俺は、渡辺 光。

俺の初恋は、小学1年生のときだった。

入学式が終わり、教室に入った。
俺は1年1組だった。

一番最後に入ってきた女の子と男の子がいた。
それが、「七瀬 綾」と「藤原 知夏」

大きくきらきら輝く目、
透き通るような真っ白の肌、
さらさらの明るめな茶色の髪、
小さい唇、
小学生にしては長い手足。

一目惚れだった。

一瞬で好きになった。
初恋だったけど、すぐに好きだと分かった。

あんなにキレイな彼女の周りにはいつもたくさんの人がいた。

恋愛感情を持つ「男の子」

憧れ、信頼などで集まる「女の子」

けど、そいつらとは違う気持ちで一緒に居る奴が「知夏」だった。

切れ長の目、

真っ黒でつやのある髪、

真っ白な肌、

すらりと伸びた手足。

2人とも、すごく大人に見えた。

彼女に近づく制限をしているのは「知夏」だった。

どうしても、近づきたかった俺は彼と友達になることにした。

「ねえ、名前なんていうの？」

知っているのにあえて聞く。

「藤原 知夏。」

それだけ言って、彼女の方を向く知夏。

「僕は、渡辺 光。友達になってくれる？」
知夏の目の前に顔を出して聞く。

「いいよ、別に。」

あいかわらず無表情で答える。

「ありがとう、知夏くん！」

「知夏。」

「え？」

訳が分からなくあぐりとする。

「知夏でいいよ。それと・・・綾！！！！」

綾という声だけ透き通っていて、大きい。

「ん？なァーに？」

さつきまで囲まれていた、初恋の相手が近くに居た。

「こいつ、渡辺 光だった今友達になった。」

僕を指さして言う。

「光？」

「そーうだ・・・よ。」

緊張で何言っているか分からなくなってきた。

「輝^{ひかる}ちゃんとかぶってるから、光^{みつ}ちゃんでもいい？私のことは綾^{はな}って呼んでね。」

そお言つて笑顔で見つめる。

「う、うん。」

きつと僕、顔赤いよな。

「よろしくね。」

「よろしく。」

これがはじめての会話だった。

それから3人は仲良くなつて、ずっと一緒に遊んでいた。

でも、どんなに仲良くなつても、2人の中には入っていけなかった。

結局は、「良い友達」止まり。

一緒にいて分かった。

知夏は綾を、
綾は知夏を、

好きだという事が。

いや、好きというだけでは収まらない。

きつと、

愛してる。

なんだろう。ということが・・・

俺が5年生になったときに聞かされた「2人の過去」

『20歳までしか生きられない』

それを話している知夏の顔と

その隣にいる綾の顔から、本当だっということが分かった。

けど、俺は綾が好きだった。

どんな過去があっても、20歳しか生きられなくなつて、

俺は、綾が大好きだ。

これは俺が唯一、胸を張って言えること。

最初は見た目だけで好きになった俺だけど、今は違う。

勝気な性格、

意外と喧嘩っ早いところ、

自分がきれいだと思っていなところ、

やさしいところ、

空が好きなところ、

頭がいいのに少し天然なところ、

俺より強いところ。

全てが好き。

この恋は一生かなわないということは分かっていた。

でも、諦めることはできなかった。

けっこうもてる俺は、たくさん告白を受けた。

けど、全て断った。

高3にもなって一回も付き合ったことないって信じらんないだろ？

「え？綾が誘拐？」

「そ、そうなんです！！それで今、知夏さんが助けにいました。」

「で、でも綾が誘拐されるって・・・」

「薬で眠らされてるみたいです。」

「許さねえ！！！！！！」

気がついたら飛び出していた。

どこにいるか分からないのに走り続けていた。

やっと、場所が分かってたどり着いたときにはもう、そこには誰も居なかった。

次の日、病院に行くと知夏は死んだと告げられ、綾は消えていた。それから彼女はどこへ行ったかわからない。

すごく不安だった。

怖かった。

綾の笑顔が見られないことがこんなにも不安なことだなんて、考えた事がなかった。

今は結局、彼女に会えたからよかったものの、
後2年後また同じ気持ちにならなくてはいけない。

それに、もう二度と綾の笑顔を見ることができなくなってしまう。

あの時よりもっと、もっと
不安で怖いだろう。

だから、その分彼女と一緒に居たい。

でも、彼女は彼のものだから・・・。

俺が気安く触れてはいけない。

4月5日。

この日に2人は18歳になった。

それと同時に二人は「夫婦」になってしまった。

結婚してしまったんだ。

「おめでとう。」

笑って言えたのに、心のそこから言えなかった自分に腹が立った。

もう、諦めた方がいい。自分でも分かっている。

でも、綾の代わりになる女なんていない。

作りたくもない！！！！

でも、もし、綾と顔も性格もすべて同じだったら好きになるだろう。

けど、それはきつと生まれ代わった「綾」なんだ。

そしたら、綾の近くには「知夏」がいる。

きつとまた、片思いをすることになるだろう。

綾は知夏がすきで、

知夏は綾がすきで……

俺は綾がすきで……………

それでも俺は彼女が好きだ。

だって、それが俺の初恋だったから。

この初恋が最初で最後。

『綾、俺は密かに君に恋をしているよ。』

昔も、これからずっと。

一生伝える事はできないけど・・・

好きだよ。

(後書き)

サブキャラの光くん。

かわいそうになっっていますよね・・・

どうにかして幸せにしてあげたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2807g/>

初恋

2010年10月10日07時23分発行